

第 341 回金沢眼科集談会 プログラム

日時 平成 30 年 4 月 8 日 (日) 10:00~13:00

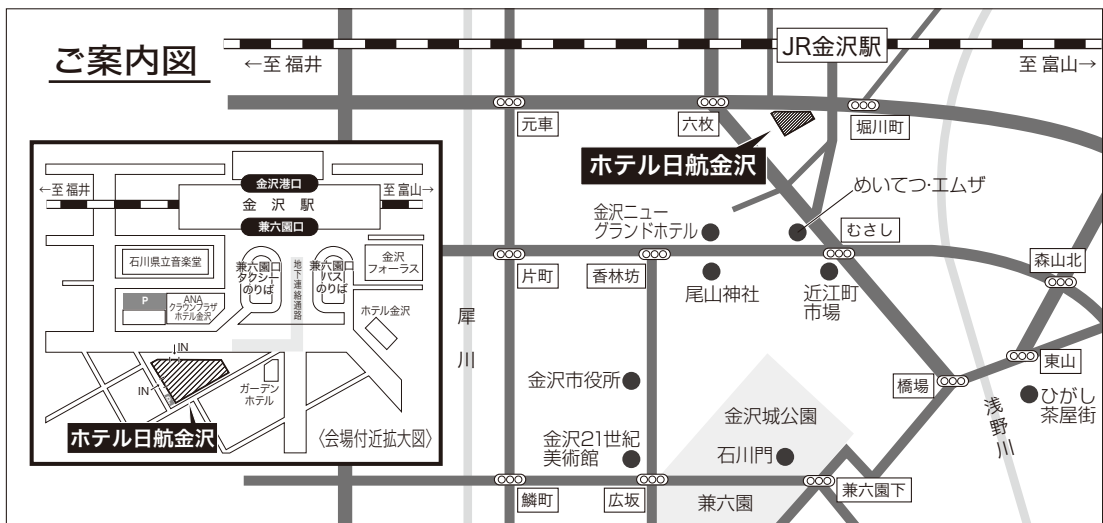
会場 ホテル日航金沢 4階 「鶴の間」

〒920-0853 金沢市本町 2-15-1 電話:076-234-8800

連絡先:〒920-8641 金沢市宝町 13-1

金沢大学眼科学教室

電話 (076)265-2403 FAX (076)222-9660



- ・ 参加費は 2,000 円です。
- ・ 本学会は専門医制度生涯教育事業 (No.59003)として認定されております。

共催:金沢眼科集談会 千寿製薬株式会社

— 次回ご案内 —

平成 30 年 12 月 16 日 (日) 金沢ニューグランドホテルにて開催の予定です。(時間未定)

特別講演 I (10:00~11:00)

座長 ^{ひがして} 東出 ^{ともみ} 朋巳 (金沢大)

「濾過手術アップデート」

福井大学 教授 ^{いなたに} 稲谷 ^{まさる} 大 先生

2012年までは濾過手術と言えば、トラベクトミーであったが、インプラントが登場して、大きく手術のバリエーションが広がってきた。トラベクトミーが有効な緑内障の症例もあれば、インプラント手術のほうが有効な症例もあり、またインプラント手術にはインプラント手術なりの術後管理の仕方や合併症もあり、それに対応する知識も必要になってくる。インプラント手術が保険収載されてから5年が経過して、演者はこれまでさまざまなトラブルを経験してきた。本講演では、その手術の有効性や合併症、そのトラブルシューティングなどを披露して、最新の知識の共有化をはかるとともに、今後登場するインプラントについても紹介する。

また、トラベクトミーの良い適応や我々の最近の術式の工夫点について、再度、臨床エビデンスを紹介しながら解説したい。

【略 歴】

- 1995年 京都大学卒
- 1996年 岸和田市民病院研修医
- 1997年 京都大学大学院生
- 2000年 京都大学助教
- 2001年 米国バーナム研究所客員研究員
- 2003年 大阪赤十字病院眼科
- 2005年 熊本大学助教
- 2006年 熊本大学講師
- 2011年 福井大学医学部眼科教授 現在に至る

特別講演Ⅱ

(11:00~12:00)

座長 ^{たかひら}高比良 ^{まさゆき}雅之 (金沢大)

「黄斑疾患の新しい検査と治療」

富山大学 教授 ^{はやし}林 ^{あつし}篤志 先生

黄斑疾患の診断と治療は OCT の登場により、その理解が深まり、大きく進歩した。しかし、OCT 検査だけでは十分に得られない情報もあり、我々は黄斑部の視細胞を観察できる補償光学眼底カメラを導入し、網膜変性疾患、特に網膜色素変性の黄斑部の視細胞を長期に観察し、その視細胞の変化を検討してきた。網膜色素変性を視細胞からみた場合の変化についてお話したい。

黄斑疾患の治療として抗 VEGF 薬治療が現在のスタンダードになっている。過去の臨床試験とリアルワールドでは対象とする患者が異なるため、リアルワールドにおける結果も重要である。抗 VEGF 薬治療について当科での成績をご紹介したい。

また、網膜中心動脈閉塞症は急激に発症し、視力予後不良の疾患である。従来の治療では有意な視力改善はほとんど得られていない。我々は門之園らが開発したマイクロニードルを用いて網膜中心動脈閉塞症の治療を試み、良好な成績を得ている。その成績についてご報告したい。

【略 歴】

- | | |
|---------------|--|
| 1988 年 | 大阪大学医学部卒業 |
| 1988 年－1989 年 | 大阪大学医学部附属病院眼科 研修医 |
| 1989 年－1991 年 | 松山赤十字病院 眼科 勤務 |
| 1993 年－1994 年 | 大阪大学医学部眼科 シニア医員 |
| 1995 年－1997 年 | ジョンズホプキンス大学 ウィルマー眼研究所
Research fellow |
| 1997 年－2000 年 | 大阪大学医学部眼科 助手、学内講師 |
| 2001 年－2006 年 | 医療法人 明和病院 眼科部長 |
| 2006 年－2007 年 | カリフォルニア大学サンフランシスコ眼科
Associate Adjunct Professor |
| 2007 年 10 月 | 富山大学 眼科学講座教授 |

特別講演Ⅲ

(12:00~13:00)

座長 ^{すぎやま}杉山 ^{かずひさ}和久 (金沢大)

「白内障手術による老視矯正の現状とレンズ選択のコツ」

金沢医科大学 教授 ^{ささき}佐々木 ^{ひろし}洋 先生

加齢白内障には今や屈折矯正手術の域を超え、老視矯正も可能な手術になりつつある。老視矯正に使用する多焦点眼内レンズ(IOL)には、従来の2焦点IOLに加え、焦点深度拡張型IOLが認可され、患者の生活スタイルに合わせたIOL選択が可能になってきた。多焦点IOLは単焦点IOLに比べ、高い術後屈折精度および乱視矯正精度が必要な手術であり、特に2焦点IOLはわずかなズレが術後視機能に大きく影響し、コントラストの低下や中間距離視力の落ち込みがあるが、焦点深度拡張型IOLは遠見コントラストおよび中間距離視力が良好で、軽度の乱視に対する許容性があり、光視現象もやや少ない。一方で、近方視力が他のレンズに比べ不良である。講演では既報および自験例の結果から、各種IOLの特徴およびメリット・デメリット、IOL選択のポイントについて解説するとともに、シミュレーションを用いた患者への説明用ソフトウェアについて紹介する。

【略 歴】

- 1987年 金沢大学 卒業
- 1987年 自治医科大学眼科 入局
- 1991年 米国オークランド大学眼研究所 研究員
- 1993年 自治医科大学眼科 助手
- 1996年 金沢医科大学眼科 講師
- 2005年 金沢医科大学眼科 教授
- 2007年 中国医科大学 客員教授
- 2008年 東北文化学園大学視覚機能学専攻 客員教授